

令和5年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価報告書

学校園名 赤穂市立城西小学校

総合的な学校園関係者評価

- ・Jサポートや授業参観などで児童の様子を見ると、元気の良いことが嬉しい。
- ・先生と子供達の関係がいいなと感じる。
- ・あたく（特別支援学級）についても、それぞれの児童に合わせた指導ができています。
- ・いじめのない安心できる「心の居場所づくり」については、特に大事だと思う。今後も「いじめの早期発見がカギ」という対応を継続していただき、誰もが学校が楽しい場所になるように願っている。
- ・全ての項目で高い自己評価が得られており、この状況を是非継続していただきたい。
- ・児童への学習、家庭や地域との連携に関する取り組みは十分評価できるが、先生方同士でゆっくり話す時間も設けていただきたい。
- ・保護者アンケートから分かるように、児童にとって城西小学校は楽しい自分の居場所であることが分かる。
- ・学校経営方針の中にある「ことばの力」、言葉には言霊が宿ることや相手の立場に立つということが今の世の中では死語になりつつある。それらを大切に取組まれていることに感謝している。
- ・城西小学校ならではの特色ある教育も進めていってほしいと思う。
- ・人材資源が限られている中、是非とも城西校区地域住民の一人として、自分のできることで協力したい。
- ・達成状況の評価は適正である。自ら学ぼうとする意欲を追究し、学ぶ楽しさが実感できる授業を進めていってほしい。

1 本年度の学校(園)経営方針

学校教育目標

<夢と志をもって、未来をたくましく生き抜く児童の育成>

- (1) 自ら学ぼうとする意欲、「ことばの力」を高める授業づくりを推進し、「納得解」を追究する対話を通して、確かな学力の育成を図る。
- (2) 相手の立場になって想像し、共に支え合う学級・学年・学校づくりを推進する。
- (3) 赤穂義士をはじめとする地域の歴史・文化・人々とのふれあいを通じて、地域と共に歩む「城西大好きっ子」を育てる。

2 本年度の学校(園)重点目標

- 1 個を生かす学習指導の充実
- 2 豊かな人間性の育成
- 3 強い意志とたくましい体づくり
- 4 家庭・地域とのつながり・信頼・連携の促進
- 5 学校の組織力及び教職員の資質・能力の向上

学校園関係者評価

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校園・教師の取組) 評価指標および目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は	改善方策は	課題と来年度具体的改善方法
					適切か	適切か	
1 個を生かす学習指導の充実	項目 児童自身が各授業におけるねらいとゴールを把握し、学ぶ楽しさを実感することができているか。 指標 児童が学ぶ楽しさを味わえる授業づくりを進められたか。	ノート 日記 日々の授業 毎時間の発言	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSSの積極的活用や学年間打ち合わせの精選により、教材研究のための時間を確保する。 ・各単元の目標を明確にし、子供同士の対話や学び合いを通じて、自らの学びを実感できる授業づくりが必要である。 ・学習につまずきが見られる児童への支援、関わりを考慮した授業づくりが必要である。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を身に付けるためには、授業のねらいや児童につけたい力が明確である必要がある。予測困難な未来社会を生き抜く力の基礎を小学校で身に付けられるよう、教材研究や職員研修を計画的に進めていく。 ・学習につまずきが見られる児童、個別の配慮が必要な児童に対する理解や教育のユニバーサルデザイン化のための授業研究・授業改善・教室環境整備を継続して進めていく。
	項目 授業における振り返りの中で、児童が「めあて」に対して「分かったこと・できたこと」を実感し、それを書いたり話したりすることができているか。 指標 児童一人一人が成就感を味わえるユニバーサルデザイン化を意識した授業づくりができたか。	ノート 日記 日々の授業 毎時間の発言	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任を中心に、引き続き授業における適切な支援方法(座席の配慮や教室環境も含めて)の共有化を図り、個々の児童の指導に生かしていく必要がある。児童に対して細かく丁寧な関わりを絶やさないと同時に、発達段階に応じたねらいや適切な支援の成果を学年ブロック単位で共有する取組を続けることが求められる。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での問題であるが、近年、スマートフォンのアプリでの友達同士のトラブルや不適切サイトへのアクセスなどの事案が度々発生している。学校でも一人一台タブレットなどの情報機器の活用について、技能の向上とともにマナーやモラルを身に付けられるよう指導していく必要がある。 ・令和5年度の小学校社会科研究大会に向けて取り組んできた『納得解』を導く授業は、さまざまな人種や性別、多様な考えをもつ人々との共生を考える上で人権教育の基盤となり得るものである。ここまで培ってきた城西小学校社会科研究を継続・発展させていくとともに、人権教育や特別活動をはじめとした教育活動全般に『納得解』の考え方を広げていく。
	項目 各教科の基礎・基本を定着させることができたか。 指標 児童の意欲を高めながら、きめ細やかな指導が進められたか。	テスト ノート 日々の授業 毎時間の発言	A	<ul style="list-style-type: none"> ・より具体的に「何がどのようにできるようにすればよいのか」を各授業において示し、児童の学習への成就感や意欲は大切にしながら、基礎・基本の定着を図る必要がある。 ・デジタルドリルなどを活用し、児童の学習のつまずきをしっかりと見取る。必要に応じて指導をする。 ・1年生…繰り上がりのたし算・ 	◎	◎	

					ひき算、2年生…かけ算の九九、 というように学年ごとの基礎・ 基本項目は定着させられるよう、 項目を共通理解しておく必要が ある。			
	「考える力」 「表現する 力」の育成	項目 指標	各教科・総合的な学習の時間等において、「考える力」「表現する力」を育成できたか。 児童が考えや意見を伝え合い、自らの考えを深められるよう取り組んでいるか。	テスト 日々の授業 毎時間の発言	A	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、5年総合「防災学習講演会（発表会）」をはじめ、1・2年生の生活科発表会など、プレゼン形式の発表会を参観日に実施することができた。6年「赤穂義士物語」も含め、次年度も表現する場を設定し、表現力や思考力を伸ばす取組を継続していく。 高校までの12年間を見据え、「キャリアパスポート」の取り組み意義を再認識し、授業改善を図るとともに、児童自身がプランニングできる力を伸ばしていく。
	キャリア教育の推進	項目 指標	夢や志をもとに、具体的な計画を立てることで、それに向かうキャリアプランニング能力が育成できたか。 めあてや目標に向かい、自分を振り返りながら日々の学習や活動ができるよう取り組んでいるか。	日々の授業 毎時間の発言 キャリアパスポート	A			
2 豊かな 人間性 の育成	いじめのない 安心できる 「心の」 居場所づくりの推進	項目 指標	児童の自己有用感・自尊感情、コミュニケーション力、自尊感情を高めることができたか。 児童が、学級の中で、自分の思いを素直に述べたり、友達の意見を肯定的に受け取ったりできるよう取り組んでいるか。	日記 日々の活動 毎時間の発言	A			<ul style="list-style-type: none"> 「納得解」を導く授業実践はは道徳・特別活動も含め、すべての教育活動において有効かつ必要であると考えられる。急速な変化を伴い、解のない社会を生き抜く力を身につけられるよう、話し合ったり、相手の気持ちを考えて行動したりする場を大切にしていく。
	全教育活動を通じた道徳教育の充実	項目 指標	道徳の時間を要とし、児童の内面に根ざした道徳性を養えたか。 道徳の学びが、児童の道徳的実践意欲につながるよう取り組んでいるか。	道徳の授業 道徳ノート 日々の様子	A	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は兵庫県教育委員会の道徳研修の資料をもとに、職員研修を実施した。次年度は理論に加え、実践研修を取り入れ、授業改善に努めていきたい。 定期的な生活アンケートを実施し、児童の内面理解やいじめの早期発見に努めることができた。次年度も継続し、道徳ノートの振り返りや何気ない児童の言動などにも目を向け、早期発見・早期対応をおこなっていく。
	全教育活動を通じた人権教育の推進	項目 指標	「学習活動づくり・人間関係づくり・環境づくり」が一体となった取り組みを進められたか。 児童の「自分も他の人も大切にしよう」とする心情が育っているか。	日記 日々の様子 日々の授業 校舎内外の様子	A			
	特別支援教育の充実	項目 指標	合理的配慮の観点を踏まえた指導計画の作成、適切な支援により能力や個性を伸ばすとともに、自立心・社会性を養えたか。また、特別支援教育についての児童・保護者への啓発に努められたか。 支援を必要とする児童が、指導者と児童で設定した目標に向かって、安心して生き生きと学校生活を送ることができるよう取り組んでいるか。	個別の指導計画 個別の教育支援計画 日々の授業 日々の様子	A			<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを中心に、配慮が必要な児童にかかる共通理解を図っていく。チーム城西をコンセプトにして、城西小学校の全児童は、城西小学校の全職員で関わり、安心して学べる場を営んでいく。
3 強い 意志	健康安全と 生命を育む 体力・気力 づくり	項目 指標	体育科の充実といのちの大切さを感じる保健安全指導の充実が努められたか。 児童が状況に応じてマスクを着脱したり、手洗い・消毒をしたりするなど、健康安全に対する判断・行動ができているか。→コロナ第5類に	体育の授業 体育的行事 休み時間の様子 保健室の様子	A	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、衛生管理マニュアルに基づいて、必要に応じたマスクの着用や手洗い・うがいの励行、保護者への周知・協力依頼を行うことができた。2学期以降はインフルエンザの流行の影響を受けたものの、適切に学級閉鎖を実施し、規定の年間教育活動を終えることができていた。次年度も、流行状況や社会情勢の変化と文部科学省や県教委の指針を踏まえた未然防止と適切な対応に努めていく。
と	基本的な生活	項目	「早寝早起き朝ごはん」運動の推進と、あいさつ	日々の様子				

たくましい体づくり	習慣の確立	指標	・返事・食育指導を充実させることができたか。 児童はあいさつ「おはよう」「ありがとう」や返事「はい」ができていますか。	(登下校の様子) (清掃時の様子) 生徒指導委員会 学校保健委員会	A	うな生活目標の設定や職員全体の共通認識のもと、取組を進める必要がある。また、家庭に対する働きかけも欠かせない。 ・児童に挨拶の重要性を伝えていく必要がある。社会生活で最大の威力をもつ挨拶、コミュニケーション力は、すぐに身に付くものではないので、継続した指導・支援が必要である。	◎	◎	・城西小学校内では屈託のない笑顔を見せる城西っ子ではあるものの、地域の方々に対してのあいさつは十分とは言えない状況にある。大町防犯パトロール隊や上飯屋暮らしサポートによる児童の見守り活動をはじめ、公園で不審者に遭遇したときに地域の方が声をかけ守ってくださった事案など、児童への周知を進め、地域に守られていることを自覚していくことが大切だと考えられる。
	安全教育の充実	項目	学校安全計画に基づき、交通安全教室、防犯教室心肺蘇生法講習などについて、効果的な取組を行うことができたか。(個人として)	避難訓練 日々の様子	A	・校内の避難訓練が実施され、真剣に取り組むことができていた。3学期も安全計画に基づき効果的に実施していく。 ・不審者対応訓練、避難所運営研修(HUG)など、適切に職員研修を行うことができています。			・不審者対応訓練や避難所運営研修(HUG)など、適切な職員研修を実施していく。
4 家庭・地域連携の促進	開かれた学校づくり	項目	学校の教育活動に関する情報を地域や家庭に提供できたか。	学校だより 学年だより 連絡帳 ホームページ オープンスクール	A	・校長によるホームページの学校だよりにより、学校の様子を地域や家庭に知らせることができている。また、各学年が学年だより等の内容の充実を努めてきた。地域や家庭とつながることができている機会を一つ一つ大切に取組を更に重視していく必要がある。	◎	◎	・「校長先生のホームページ、飾らず正直な気持ちを書かれているので親しみやすく身近に感じられる。これからはホームページを続けていただき、学校の様子を見せてもらいたい。」との感想が寄せられている。次年度も引き続き、定期的に学校ホームページを更新し、地域の皆様に城西小学校への親しみを醸成していきたい。
	地域の教育資源の活用	項目	学校支援ボランティアやゲストティーチャーなど、地域の教育資源の活用を図れたか。	学校支援ボランティア ゲストティーチャー	A	・Jサポーター、学生ボランティア、地域のゲストティーチャー等、たくさんの人と協力し合うことで、地域とのパイプをさらに太くすることができた。地域との関わりを今後とも大切にしたい。			・Jサポーター制度は本年度の反省点を踏まえ、次年度も継続することで地域との結びつきを強められるようにしていく。
5 組織力・能力	資質能力の向上	項目	研究授業などを通してお互いに研究を深め、切磋琢磨できる教師集団を作ることができたか。	日々の様子 日々の授業	A	・校内研修で得たものは、実践し継続して取り組む必要がある。また、外部の研修会などに積極的に参加し、新しい知識を吸収し、みんなで共有することが大事である。	◎	◎	・授業参観でもデジタル教材の活用について見ていただくことができた。3年生以上は家庭学習での活用が定着してきた。次年度も市費での無償が決定したことから、さらなる活用と活用方法の研修を進めていく。
	ライフバランスの確立	指標	SSSを効果的に活用すると共に、ノー残業デーを守り、超過勤務時間を短くし、プライベートの時間を充実させることができていますか。		A	・職員同士で超過勤務時間を短くするためのアイデアを伝え合うなど工夫が必要である。(学年で計画的に分業、教材・教具の共有、仕事内容の優先順位など) ・3～6年生はベネッセのデジタルドリルを効果的に活用して、児童の学力向上と業務改善を図る。 ・SSSとの連携で、業務の効率化を共有していきたい。			・喜びや悩みを共有できる職員関係を築いていくことができています。「学校は先生が楽しいと思えることで子どもたちも楽しめる」との示唆をいただいたことから、より一層働きやすい職場づくりを自分たちで作ろうという意識を持ち、業務改善に取り組んでいきたい。

自己評価における特記事項

- ・職員同士でゆっくり話をする時間がとれていない。
- ・学校行事の精選を行うことで、教師が児童と向き合う時間や、児童の学力向上につなげられる教材研究の時間を確保したい。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・校内の安全のためにも、備蓄倉庫の点検、学校内の備品などの点検も行ってほしい。職員の防災知識と意識を高められるようにする。
- ・「教員同士で話す時間が取れない」が、昨年より改善されていない。全体では難しいが、まず各学年同士、教科担当同士など少しずつ努力をお願いしたい。

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。

A:達成した4ポイント B:ほぼ達成した3ポイント C:あまり達成できなかった2ポイント D:達成できなかった1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

※達成状況で、評定点数が「3点以上」をA、「2、6以上3未満」をB、「2、6未満」をCとしている。